



みなと

みなと 41号 2013年12月1日
兵庫県声の図書赤十字奉仕団
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-4-5
日本赤十字社兵庫県支部内
(Tel)078-241-9889 (fax)078-241-6990
代表者 大下 操
編集者 久保田加奈女

第24回交流会



「第24回交流会を終えて」

兵庫県声の図書赤十字奉仕団創立50周年記念交流会は11月23日(土)、リスナーさん66人 同行者53人 団員76人 来賓1人 ゲストとそのご両親 奉仕課(応援)2人 合計201人のご参加を得て開催することができました。盲導犬ユーザーは1人、車椅子使用のかたは3人でした。

7月から11月までの全5回の実行委員会では、当日リスナーさんと出会いお別れするまで楽しく過ごしていただくにはどのような工夫をすれば良いか、ひとつひとつ課題を出し合い話し合ってきました。しかしながら、帰りのバスが到着するまでの1階ロビーで過ごす時間、特にお一人で参加のリスナーさんに対する配慮が足りなかったことが悔やまれます。反省事項として、次年度へ申し送りをいたします。

11月23日は秋晴れの素晴らしい天候に恵まれ、中桐さん(ともしび)の司会で、声の図書大下委員長開会の挨拶、日赤兵庫県支部奉仕課日下課長のご挨拶(代読)、来賓の兵庫県青少年赤十字賛助奉仕団市橋 勲委員長とゲスト風かおるさんのご紹介。

そしてリスナー代表香山良樹さんのご挨拶をいただいた後、12のテーブルに分かれて座っていただいたリスナーさんのお名前を五十音順に読み上げ、その場で手を上げてお返事をさせていただきました。

長年リスナーだったかたが今年病に倒れて亡くなられそのご主人様が東京からお見えになり、お住まいとお名前が紹介された時は「えっ！そんなに遠くから」と会場内がどよめきました。

昼食時間に行なった「花時計1月号（ともしび）」に収録するそのかたへのインタビューでは、毎年必ずご夫婦で参加して下さっていた交流会に今年はお一人で参加。奥様を亡くされた悲しみをこらえて答えておられました。

風かおるさんの時間では、シャンソンと風さんのオリジナル曲を歌ってくださり、司会の羽島さん（はあもにい）との心温まるやりとりも楽しく、「オー・シャンゼリゼ」は全員で合唱。風さんは、大活字の歌詞や点字の歌詞を読みながら歌うリスナーさんに時々マイクを向けて一緒に歌ってくださいました。

阪神・淡路大震災を経験された風さんの、親を亡くした子どもたちへの思いがひしひしと伝わり、風さんがオリジナル曲「レインボー」そして「勇気」を歌われると、涙ぐみながら聴いている人もおられました。

歓談の時間は、普段なかなか出会えないリスナーさん同士、或いはリスナーの皆さんと私たち団員が直接お話できる、年に1度の大切な交流の時間。限られた時間ではありましたが、お聞きしたご意見やご要望をテーブルの担当者から発表いたしました。

また交流会の電話案内の折に、毎日のご様子や声の図書へのご感想などもお聞きしておりましたので、今回残念ながら参加できなかったかたのご意見としていくつか纏めてご披露しました。

最後に「今日の日はさようなら」を全員で合唱し、交流会を閉会しました。

交流会を開くごとに深まるリスナーさんと私たち団員との絆。来年も再来年も笑顔でお会いできたらと心から思いました。

不慣れなことも多くご心配をおかけしたことと思いますが、皆さんに助けられて実行委員長として最後まで努めることができました。5ヶ月間共に行動してきた仲間の実行委員の皆さん、ありがとうございました。役員の皆さん、団員の皆さん、ご協力ありがとうございました。

最後になりましたが、日赤兵庫県支部、すべての面で支えてくださった支部奉仕課日下課長、松本係長、交流会当日私たちに寄り添って助けてくださった奉仕課の大宅さん、足立さん、写真撮影をしてくださった支部企画施設課山村課長さんに心より感謝申し上げます。

第24回交流会実行委員長 福井克子

デイジー班

声の図書50周年の記念誌「あゆみ」に掲載されている、「日赤声のアルバム」完成記念写真を見ながら、もう5年半も経つのかと、思い返してみました。

あれから毎月、各グループそれぞれの作品のデイジー編集、声のアルバムのマザー編集、発送、受け入れの分担作業を繰り返しながら、最初は毎月、ここ数年は各月になったデイジー班の定例ミーティングを重ねて、少しずつ進化してきたのですね。

日赤声のアルバム11月号は176枚のCDを発送しました。破損やデイジーリスナーの増加で、その都度新しいディスクを作り足して発送していますが、何年もコピーを繰り返しているディスクもかなりありました。完成記念写真の時のあのピカピカのディスクがこんなに使い込まれた感じになるとは、あの時は想像もしていなかったと思います。

自分自身を振り返ってみると、「グループの中では比較的パソコンを使える」というだけの理由で、よくわからないまま、グループ代表でデイジーの勉強会に参加したのが6年前の夏。それからの「デイジー班」立ち上げでしたから、デイジー化の流れを理解できたのもずいぶん経ってからでした。もしかしたら、6年前当初は、ほとんどの人がそんな感じだったかもしれません… 「とにかくやってみよう！」と、グループの枠を超えて、試行錯誤と失敗を繰り返し、教え合い、助け合いながら、活動してきた6年だったと思います。

デイジー班では、デジタル化で便利になったことのほかに、こうしたグループの枠を意識しない作業を通してたくさんの方たちと親しくなれたことも私の財産となり、楽しく活動できているのだと思っています。

まだまだ進化の途中にあるデイジー班。PCへの直接録音やデジタル編集の便利さを実感しながら、リスナーさんたちの「使いやすくなった」、「聞きやすくなった」との喜びの声を励みにこれからも活動していきたいと思います。

石田 むつみ



点字班

「点字の奥深さ」

初めて点字を打ったのは 10 数年前、テープ「花時計」のケースラベルでした。青木委員長に「担当月のテープのラベルは各グループで作ることになりました」と、点字板の使い方を教えていただき、約 180 枚分を数日間かけて打ち、墨字スタンプを押しました。刺繍のクロスステッチをするような感覚でしたが、私にも出来る！リスナーさんからのお便りを読みたい！点字をもっと知りたくて西宮の点字グループに入ったこともありました。

2006 年に点字班が正式に発足した経緯は、記念誌に詳しく書かれています。

点字は多くの決まりごとがあり、私はなかなか覚えられません。

打つ『書く』時は凹面で右から左へ。読む時は打った紙の裏面の凸面を、視覚障がい者の方は指をそっと触れながら、左から右へ『触読』されます。

私は触読することができません。点字を覚え始めた頃は、打った凹面から、読む凸面に頭を切り替えて、目で読むことも難しくて、慣れるまでの数日間はずいぶん体がコチコチに痛くなりました。目が不自由な方は指先に全神経を集中して点字を読まれるのです。私達は絶対に間違いがないように「正しい点字を」と、学習と校正を重ねています。

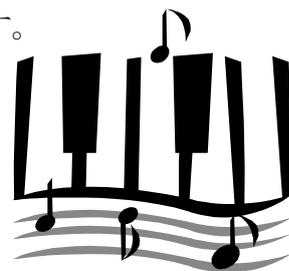
10 月、声楽家の時田直也さんと、露のききょうさん(女優/落語家)が風月堂ホールで朗読劇をされました。時田さんは日赤声の図書のリスナーさんです。

1 部は 時田さんの「ピアノ弾き歌い」バリトンの歌声が響き渡りました。

2 部は 山本周五郎著「鼓くらべ」(短編)で「二人朗読劇」です。

プロローグで時田さんがピアノを弾かれ、ピアノの前に座った位置で劇が始まりました。ききょうさんはステージの中央に座り、小机の上に台本とマイクが置かれています。グランドピアノの蓋は音響効果の関係で 3/1 開けた状態でした。その黒く光る蓋が鏡の役目をして、点字の台本を読まれる時田さんの指が蓋に美しく映し出されているのです。「素晴らしい」と皆さんが思われたことでしょう。

筋は「新年に加賀の城中で催される、鼓の打ちくらべに向けて練習に励む娘と、謎の老絵師の物語」です。台詞に合わせ台本を触読される指のしなやかさ、流れるように静かにめくられる台本、バリトンの声を老人の渋い声に変えた台詞回し。ききょうさんと息が合った朗読に引き込まれ、エピローグのピアノと歌の演奏が終わった時、50 分間の物語に感動の拍手が鳴り響きました。



山崎 和子

朗読・音訳を見直す会



今年6月に「録音図書製作マニュアル」を発行いたしました。早速、使いやすいというお声を聞いたり、足りない部分があるというご指摘を頂戴したりしています。今後も、皆さんからどしどしご意見を頂き、よりよいマニュアルにしていきたいと思っております。今年度の後半の予定としては、来年1月～3月に、勉強会を企画しています。声の図書赤十字奉仕団員が一堂に会して勉強することは、大変意義のあることだと思います。ご案内は後日いたしますが、ふるってご参加ください。今年7月からは、奇数月の第3水曜日、午後1時30分から例会を開いています。朗読・音訳に関してご質問等があれば、どうぞご連絡ください。お待ちしております。これからも、質の良い・相手に伝わる録音図書をリスナーの皆さんにお届けできるように提言していきたいと思っております。宜しく願いいたします。（池内早苗）

日赤声奉の朗読・音訳を見直す会だより 第7号

「記事や PHP を読む場合の読み方」

- I. 「7」の読み方・・・年月日に関して「なな」と読みましょう。
7月号は、なながつごとと統一しましょう。
(ただし、単行図書は、作品のニュアンスを考えて読みます。)

- II. ご意見の宛先を読む場合は下記のように読みます。
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通り 1-4-5
日本赤十字社兵庫県支部 兵庫県声の図書赤十字奉仕団

- III. 「同社」の読み方・・・
社名の後、すぐに同社と出てきたら、どうしゃと読みます。
離れて出てきた場合は、固有名詞を読みます。
「五輪」の読み方・・・
オリンピックと読みます。
「米国・英国」の読み方・・・
アメリカ・イギリスとよみます。
(ただし、単行図書の場合は、字の通り、ごりん・べいこく・えいこくと読みます。)
(神坂順子)

単行図書検討会

単行図書検討会は、月一回録音図書にする本を選定していますが、リスナーから録音依頼がある時は、優先的に録音図書にするようにしています。蔵書にしても借り手がないと思われる場合は、本代やCD・テープ代をリスナーに負担してもらい、プライベート図書として録音する場合があります。プライベート図書の録音のほうが気が楽だと思われる方は、単行通信で募集した時には、ぜひお申し出ください。今年度4月～10月、リスナーのリクエスト本11冊（うちプライベート図書5冊）、本会の推薦本16冊、団員の自選本5冊を録音完成、または録音中です。団員の皆さんの多大なご協力、ご尽力に感謝申し上げます。

単行図書の録音は、2012年度から、すべてデジタル録音になり、ほとんどの方がデジタル録音に慣れてこられたようですが、テープ録音にくらべ、口中音やその他のノイズが多いように思います。校正に出す前にヘッドフォンで聴いて、ノイズのチェック、除去をお願いいたします。

単行テープの収納場所が限られているため、現在、単行テープの整理をしています。来年の三月末までにテープの整理、目録の作成をして、四月から新しい目録で貸し出しをする予定です。リスナーから単行図書の貸し出し希望や録音依頼の連絡があった時は、電話機の横にある『単行図書「貸し出し」「録音」希望』に記入のうえ、貸し出し希望の場合は「ことばの花束G」の、録音希望の場合は「単行図書検討会」のレターボックスに入れてください。お手数ですが宜しく願いいたします。

これからも、リスナーの皆さんに喜んでもらえる単行図書の製作を目指していきたいと思っております。単行図書に関するご提言があれば、どしどしお寄せください。お待ちいたしております。

池内早苗



「創立 50 周年記念のつどい」を終えて

去る 10 月 26 日、支部 7 階大会議室において、創立 50 周年記念のつどいが開催されました。産声を上げてから半世紀、熱い思いは団員から団員へと 50 年の節目に手繰り寄せられ、つどいの日を迎えました。この間、震災にも遭いました。技術の革新も乗り越えねばならない大きな壁でした。ひとつひとつクリアできたのは日赤支部奉仕課のサポートがあったればこそと、感謝の気持ちでいっぱいです。

また基礎を築いてくださった OBOG の方の絆は強く、ことがあれば馳せ参じようとばかりに温かく見守っていただいて、どれだけ心強く思いましたことでしょうか。このことはつどいの日最後に東急インで開かれた同窓会で改めて感じました。

実行委員会は 10 回に亘り開かれ討議を重ねました。またその間、役員の方には常に出席して頂き、広い視野で折に触れアドバイスを戴きました。

「努力と気を抜かない校正」の記念誌班は時間を忘れて作業に没頭し、「センスと技術」の CD 制作班は団員すべてを巻き込んだ適材適所で進めてまいりました。完成した「あゆみ」と「花時計特別号」は立派な「証」です。

そして「つどい」当日、団員 136 名のうち 109 名の参加となり出席率の高さは驚くほどでした。来賓の方、OBOG の方たちをあわせると総人数 157 人です。

第一部の式典が滞りなく終了、

二部の交流会ではそれぞれのグループがもてる能力をフルに発揮し、工夫を凝らした出しもので会場を大いに沸かせました。

私達も充分楽しみました。



さてどこにも記録のないエピソードとして忘れられない出来事を・・・。

前日早朝、ボランティアルームに入ってびっくり！！大きなテルテル坊主が天井からつるされているではありませんか。「台風が来る」の予報に日下課長と松本係長、大宅さん、足立さん、が作ってくださったものです。胸が熱くなりました。翌日の晴天と成功は確信に満ちたものとなった瞬間です。感謝とお礼の言葉は言い尽くせませんが、心から「ありがとう！！」と皆さんを代表して言わせていただきます。そして実行委員会の皆さん、お疲れ様でした！そしてオール日赤すべての皆さん、ありがとうございました！！

50 周年実行委員長 羽島 敦子

★ リスナーお便り★

声のアルバムに寄せて

山口桂子さん 9月2日

初めて便りを書きます。立秋過ぎたとはいえ、日中は暑い
ですね。しかし秋の虫の声も聞かれるようになりました。
「あともう少しの辛抱だ」と。「声のアルバム」毎回為に
なる内容多いですね。繰り返し聞いたりしています。



井上至雄さん 10月23日

いつも「声のアルバム」ありがとうございます。
今月は「つちのこ」が心にしみて良かったなと
思います。

南部照明さん

今年は私達のために朗読して頂いて、
50周年ですね。本当に長い間ありがとう
ございます。最初、私が借りたのは田辺
依子さんが朗読したオープンテープで、
春風亭柳昇の与太郎戦記だったのを覚え
ています。交流会も計画して頂いて、
そのことによって皆様と親しみが増して
心温まる気持ちでいつも感謝しています。
今後とも宜しくお願いします。

香山良樹さん 11月4日

「日赤声のアルバム」楽しく聴いています。
いろいろな人の書いた言葉の中には、教えられ
ることが多いですね。エッセーを含めてたくさん
の読み手のものを読みたいと思います。 皆様の
ご奉仕により、いろいろな情報ありがとうございます

畠田武彦さん 7月15日

「声のアルバム」2月号を、今頃聴いています。
太平洋戦争勃発。昭和16年12月8日は、日曜日でした。
「大本営、発表。わが陸海軍は今8日未明西太平洋上において、
米英両国と戦争状態に入れり」
ラジオで放送するのは、タテノモリオアナウンサー。 翌2月には、
シンガポール陥落・・・と言っていました。

花時計 11月号に寄せて

松本民雄さん

いつも楽しい情報をお聞かせいただきまして、ありがとうございます。
今回の花時計、高岡チョコレートの紹介でしたが、高岡チョコレートは
私達、視覚障害者がお邪魔しても見学できるのですか？教えてください。
50周年記念では、何を計画しておられますか？何か行事をされる時は、
私は参加できませんが、電話で詳しく教えてください。





花時計プログラム

花時計7月号 (あかりの会)



A面

- 健康講座 「肺ガンについて」
日赤ドクター 呼吸器内科部長 杉本啓介先生
聞き手 難波悦子
音楽 アンドレ・ナラバのチェロで「夏は来ぬ」
- 朗読 「イラクの子どもたちは どうなるの」
福井恵子

B面

- 朗読 村上春樹作
「サラダ好きのライオンより」 4篇
①スーパーサラダが食べたい 川岸昭夫
②この曲を聞くと 難波悦子
音楽 オスカーピーターソンのピアノで
「シカゴ」
③いちばん おいしいトマト 赤木直美
④忘れられない、覚えられない 阪田輝夫

花時計8月号 (ともしび)

A面

- インタビュー ヴィオラ奏者 今野厚子さん
聞き手 田辺依子

B面

- 小泉八雲作 「怪談」より
「ムジナ」 石田むつみ
- 佐藤はつ女 「こころ咲かせて」より
「人は年を重ねて成長する」 森下万智子
- 半藤一利・荒川博共著
「風の名前・風の四季」より
「風のいろいろ」 田辺依子
- デイジー図書のご案内・お便り紹介

花時計9月号 (ことばの花束)

- 始めの挨拶・目次 柴橋
- 佐村河内守 ” HIROSHIMA “ 松岡
- 坂本健一著 「夫婦の青空」 山本・中原
- サンダードッグ 松永

- ジョン・レノン Woman 長谷川
- 三ツ矢サイダー 中原
- 新刊図書案内 柴橋
- お知らせ・終わりの挨拶 柴橋

花時計10月号 (はあもにい)

A面 始めの挨拶と内容紹介 山本

- 風かをるさんのこと 羽島
- 福島と神戸をつなぐもの 阿部・宮本
- ” チェサ “ ~韓国お盆事情~ 山木

B面

- 裸足で出会ったミャンマー 友松
- JICA 食堂へ行ってきました 久保田
- 京都のお座敷遊びって、どんなん?
- ちょっと一息、シルバー川柳とおらほ
体操 柚本
- お便りとお知らせ 山本
終わりの挨拶 山本

花時計 11月号 (神戸YWCA)

A面

1. 高岡チョコレート工場見学 松本裕子
 2. 東南アジア三ヵ国の思い出 安藤陽子
 3. デイジー図書案内
ナレーター 黒崎道子
- 編集 片山恵 中山君子 松本裕子

B面

4. 布引の滝御滝茶屋を訪ねて
時田直也夫妻
5. 私の好きな味噌汁の具 中山君子
6. 交流会お知らせ
7. 50周年委員会お知らせ



花時計担当月 2014年

担当月	担当月
2013 12月	こすもす
2014 1月	ともしび
2月	ことばの花束
3月	はあもにい



編集後記

50周年記念行事、そして恒例の交流会。それぞれの委員会に出席し、とても勉強になりました。グループの枠を越えて積極的にアイデアを出し合い、『行事を成功させること』を目標に、一致団結して取り組まれる姿に感動しました。そして50周年では、団員のエンターテイメントぶりに脱帽です。来客の皆様もリラックスされているご様子で、心の中で思わずガッツポーズ。また交流会では、ゲストの風かをるさんとリスナーさんが共に楽しんでおられるご様子に、気持ちが暖かくなりました。まだまだ、声奉は発展し続けますね。団員の皆様、本当にお疲れ様でした。

(久保田 加奈女)